

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 11 月 8 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越 楓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
北海道 釧路市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
北海道沿岸に来遊するシャチの音響行動解析
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 5 日 ~ 平成 26 年 10 月 14 日 (10 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
Uni-HORP (代表: 東海大学 大泉宏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>今回の渡航は北海道釧路沖において実施されたシャチの生態調査を行ったものである。乗船予定日は 10/6~13 日の 8 日間であった。8 日間で、出航したのは 5 日間であった。台風や低気圧の影響で、半日出航の日もあった。シャチの発見は初日のみであった。</p> <p>主に観察された哺乳類は、キタオットセイ、イシイルカ、ネズミイルカであった。今回の調査は海棲哺乳類の発見が例年に比べて低くなっていた。</p> <p>初日である 6 日にシャチを観察することができた。</p> <p>9 時前に発見し、14 時まで観察したため、約 5 時間ほどであった。観察開始時に衛星発信器装着をおこない、観察終盤にバイオプシー試料の採取を行った。</p> <p>群れは観察時 18 頭前後と思われたが、写真による識別から 21 頭いたと考えられる。かなり広範囲に広がって泳いでいた。数頭がナガスクジラ(一頭・幼獣とみられる)と混泳しており、捕食するかと思われたが観察中にそういった行動は見られなかった。</p> <p>鳴音の録音と同時に行動記録を、3 時間程度取ることができた。今後修士研究の解析に加える予定である。</p> <p>今回初日に衛星発信器の装着に成功し、その後もシャチの位置を確認し続けることはできていたが、観光船の出られない沖や、陸地近くに居る場合も、時化のため発見できず残念な結果となってしまった。衛星発信器を打つことで、シャチがその海域から離れてしまうのではないかと危惧されていたが、打ったあとも 3 時間ほど観察することが出来、実際海域を離れることはなかったため、影響は小さいのではないかと考えられる。今回の結果をもとに、シャチを観光資源としている羅臼にて衛星発信器を装着できないか相談することができるであろう。</p> <p>今年度及び私の修士研究の調査は今回が最後であった。衛星発信器を日本のシャチに着けることが出来たのは、今回が日本初であり、調査チームとしても長年の悲願であったことから、この調査に参加できたことをうれしく思う。と共に自身のデータ収集と後輩への引継ぎも完了した。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真 1 : 発信器付き個体



写真 2 : シャチと混泳していたナガスクジラ

6. その他 (特記事項など)

調査の調整をしてくださった齋野さまをはじめとする Uni-HORP のみなさま、観光船はまなすの船長浜松貢さん、杉田知香さんに感謝申し上げます。